令和7年度 第2回 西都市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和7年6月26日(木) 午前10時35分～

2 場 所 西都市役所本庁舎3階 301会議室

3 出席者

(構成員) 西都市長 押川 修一郎

教育委員会

教育長

榎本 浩之

委員(教育長職務代理者)

高橋 博昭

委員

西村 美津

(構成員以外の出席者)

教育政策課長

大西 静

同教育総務係係長

緒方 大又

総合政策課課長補佐

森田 裕

4 協議・報告事項

(1) 教育大綱について

5 発言内容

以下のとおり

発 言 者	内 容
市長	それでは、「(1) 教育大綱について」事務局より説明をお願いします。
総合政策課課長補佐	<p>ただいまより「西都市教育大綱（案）」についてご説明いたします。お手元の資料「教育大綱 修正箇所一覧」をご覧くださいと思います。</p> <p>前回の第1回総合教育会議におきましてご意見をいただきました「外国籍の子どもの学びの保障」につきまして、加筆修正を行ったところであります。</p> <p>具体的には、大綱（案）の5ページの基本方針2「誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進」のうち、施策の方向性⑥「子どもの権利擁護と安全・安心の確保」の文末に、「さらに、本市に在住する外国人の子どもについても、教育を受ける機会を提供し、安心して学校生活を送るための支援を行います。」という一文を加えさせていただいたところでございます。</p> <p>この内容で、現在、パブリックコメントを実施しております。本日時点におきまして、まだご意見等はいただいておりますが、意見募集期間としましては明日27日までとしております。募集期間終了後、最終的な内容を確定させたいと考えております。</p> <p>なお、パブリックコメントにおきまして大綱本文に修正が必要となるご意見があった場合には、改めまして書面審議で皆様のご意見を伺いたいと考えておりますのでご了承いただければと思います。一方、修正が不要な場合や、軽微な字句修正に留まる場合は事務局で調整させていただきたいと考えておりますので、こちらにつきましてもご了承いただければと思います。</p> <p>説明は以上になります。よろしく願いいたします。</p>
市長	<p>それでは事務局の方から説明があったところではありますが、皆様からご意見がありましたら、お願いしたいと思います。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>修正後の方向で進めたいと思いますが、皆様の方でご意見がありましたらお聞かせください。</p>
教育長	<p>なければ私の方から。この修正部分につきましては、外国籍の子どもについてということをつけ加えさせていただきたいということだと思いますけれども。外国籍の子ども達の今の教育環境の中で、課題として挙げられるのは給食の問題とそれから進路保障の部分なのかなと思っております。給食が、西都市の子ども達と随分差があると、ハラールとの問題等があるので難しい点ではあるんですけれども、なるべく同じような形で提供できないかというのを今、模索しているところです。もう一つは進路保障で、既に一番学年が高</p>

	い子が中学生にいますけども、その後の子ども達も含めてですね、県立高校、それから私立（高校）、本人と保護者の意向を踏まえながら、どういう体制でフォローアップできるかなということも学校とちょっと協議をしているところです。そういったことを含めて、ここにきちっと位置付けていた方が良いかなということをお考えまして提案させていただいたところです。以上です。
市長	ありがとうございます。この進路についての西都市の事例とか、或いは県内のそういった事例とか、そんなのはあるのですか。
教育長	西都市はですね、外国籍の子どもは今、県立高校にいます。あの子は、日本語がある程度話すことができたので県立（高校）に合格して通っておりますけども。県内の事例は、なかなかサーチが足りていないところがありますけども、やっぱり本市の外国籍の子ども達の進路というのはちょっとなかなか厳しいというのがありますね。今の中学生の子は、日本語は堪能なんですけども、試験を受けて通れるかという学力の問題、そこをどうするのかというのを学校といろいろ協議を進めているところです。県立（高校）を受けるとなると、県教委とか、試験をどうするかとか、いろんな課題が含まれているなと思っております。
市長	今の県立（高校）とか、私立（高校）にそういった相談をされていらっしゃるということではないんですか。
教育長	まだ、本人と保護者の意向がどうなのかということをお中学校側が聞き取りをしているところです。これからということではないかと思えます。
西村委員	それでは働くことになるということもあると。
教育長	それもあるかもしれません。ただ、この前、聞いた時には、やっぱり上を目指していきたいということを本人は言っているみたいですね。中には、弁護士になりたいとか、ドクターになりたいとか、そういう意向を持っている子もいるらしくて。そうなってくるとしっかりとした学力を保障していくことを学校も、行政も、教育委員会もしっかりしておかないといけないかなと思いますね。
市長	そうですね。
高橋委員	法的な問題はないということでしょうか。今、来ている（外国籍の）子ども達というのが日本にいますけども、在住しているわけですけども、それがどんな形で在住しているのか。
教育長	それはちょっと把握していませんけども。基本的には公立の中学校、小学校に通っているわけですから多分問題はないんじゃないかなって思うんですよね。外国籍の子どもが県立（高校）にも通っていますし、中学生にもいますから、それと同等ではないかと思っております。

高橋委員	昔、外国から来た子ども達は、難民、たぶん認定されているのかなと思ってですね。私、市内小学校にいたんですが、その頃の子どもが高校に行って、私が入院した時に看護師になっていたんですけども。名札を見たらカタカナではなく、漢字でしたので、あーなるほど、日本国籍が取れたのだなと思いながら。その辺りは聞かなかったのですけれども。その子たちはどうやって高校を進学したのかなって思っていますね。この子達も同じような形で、高校、大学に行くのなら大学に行けるのかなと。
市長	その（外国籍の）子どもさんは、日本語はどのくらいまで。教育長が見られた範囲で。
教育長	先ほど紹介しました中学生の子は随分話ができます。私が朝、そこに、校門に立っていても挨拶も普通にできますし、会話もできましたね。やっぱり、その子は小学校からいますので、小学校からいる子は早い。あの子たちが受験の対象になるので、どうするかということをお早急にご考えとかなないといけないのかなと思いますね。
市長	まだ次の受験の 때가 ちょっと心配だということですね。
教育長	日本語はしゃべれますけど、試験を受ける、点が取れるかということなかなか。一般の、普通の県立（高校）の試験とか、記述の試験を出されて、できるかといったらちょっとそれは厳しいかなと。
市長	そういう時には、なんか別枠で。
教育長	そうですね。だから校長と話をしている中では、例えば、本人と保護者の意向をとって、入試がパスできるような学力をつけてから受けさせるか、或いは県教委とか、私立高校にちょっと、そういう協議をして、いろんなことを考えていかなないといけないかなと思いますね。
市長	それを含めて、こういうことで、修正案ですね。そういう方向でいいのかなと思います。 委員の皆様から特にご意見もないようですので、教育大綱につきましては、事務局より提示された内容で、策定に向けて調整を進めさせていただくことでよろしいでしょうか。
	「はい」との声
市長	ありがとうございます。 本大綱案は明日 6 月 27 日までパブリックコメントを募集しております。本日時点におきましてご意見はいただけていないということですが、ご意見の提出があった場合には、事務局で精査し、もし大綱本文に修正が必要な場合は、改めて書面審議にて皆様にご確認いただきたいと思います。その場合は、別途書面にてご連絡いたします。一方、修正が不要な場合や、軽微な字句修正に留まる場合は、このまま私にご一任いただき、策定を進めたいと存じますが、この進め方で

	よろしいでしょうか。
	「はい」との声
市長	ありがとうございます。それでは、そのような形で終了とさせていただきます。 ご協力ありがとうございました。